



校報 かわつ

松江市立川津小学校
令和8年5月25日
文責 校長 川本 徹



【HPの2次元コード】

① 考え表現できる子

② 輪になって助け合う子

③ 続けてあきらめずに取り組む子

紫雲丸遭難事故から71年

紫雲丸遭難事故は、昭和30年（1955年）5月11日早朝、香川県高松港沖で国鉄宇高連絡船「紫雲丸」と同貨物連絡船「第三宇高丸」とが衝突した事故です。この事故で紫雲丸は沈没し乗客・乗員168名の犠牲者が出ました。

この紫雲丸には、川津小学校6年生の修学旅行団66名（児童58名、引率教員5名、付添保護者3名）が乗船していました。四国地方への2泊3日の修学旅行最終日、岡山に渡る最中、児童、引率教員、付添保護者合わせて25名がお亡くなりになりました。



命日にあたる5月11日（月）、こどもたちは登校した班ごとに記念碑前に行き、お参りをして一日をスタートしました。家から持って来た花をお供えすることももあり、記念碑はたくさんのきれいな花に囲まれました。

また、早朝より「生存者の会」の方3名がお越しください、記念碑まわりを掃除したり参拝したりされた後、こどもたちの様子も見守ってくださいました。

1校時は、「生存者の方のお話を聞く会」を開きました。参加した4・5・6年生は、生存者の会の方から事故や被害の様子、これまでとこれからの生存者の会の取組への思いを聞かせていただきました。今回も保護者の皆様、地域の皆様にお声がけをし、この会に参加していただきました。こども、大人、参加したそれぞれが事故の様子を知ったり、命の大切さについて考えたりする貴重な時間になりました。



第1回学校運営協議会

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、地域の皆様、保護者の皆様と学校とが力を合わせて学校の運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」をより推進する仕組みです。

5月14日（木）は、7名の委員様に今年度の学校運営の基本方針を説明し、承認していただきました。今後、学校教育目標の達成に向けて活動を進めます。学校経営構想を本紙の裏面に掲載しました。ご一読ください。



児童総会

本校は児童会組織として八つの委員会を5・6年生で構成しています。委員会活動のなかで話合った「活動のめあて」「活動内容」「全校へのお願い・呼びかけなど」を広く知らせるために、5月13日（水）児童総会を開きました。各委員会の正副委員長が内容を発表した後、参加した3から6年生の質問と意見発表の時間がありました。活動内容をさらに詳しく知るための質問、活動の工夫につながる意見などが多く聞かれました。この総会が終わり、それぞれの委員会活動がいよいよ本格的に始まります。



今年度初めての授業公開日



5月15日（金）、今年度初めての授業公開日でした。国語、算数などの教科の学習、「しんきゅうおめでとうのかい」など、こどもたちの活動を保護者の皆様にみていただきました。中には、辞書引き、長さの計測、筆算を親子一緒に取り組む学級がありました。おうちの人と一緒に活動して、こどもたちはうれしそうでした。保護者の皆様、来校していただきありがとうございました。

5月29日（金）、校内体育会を行います。色別の活動をけん引する6年生は、応援合戦の中でのパフォーマンスとコール、応援歌と振り付け、各色のスローガンパネルと応援旗づくりを進め、今週からは色別集会が始まりました。当日は、競技、応援合戦へのご声援をお願いします。

6月の主な行事

- | | |
|--|---|
| 2日（火）全校朝礼
2年6時間授業開始
歯科検診〔1年〕 尿検査2回目
プール掃除〔6年〕 | 11日（木）紫雲丸の日 眼科検診〔全学年〕 |
| 3日（水）校内体育会予備日①
フッ化物洗口
プール掃除予備日① | 12日（金）内科検診〔5年〕
尿検査3回目
租税教室〔6年〕 |
| 4日（木）内科検診〔3年〕
プール掃除予備日② | 16日（火）5年5時間授業
宿泊研修結団式〔5年〕 |
| 5日（金）校内体育会予備日②
プール掃除予備日③
スクールカウンセラー来校日 | 17日（水）宿泊研修1日目〔5年〕
フッ化物洗口 |
| 8日（月）水泳学習開始予定 | 18日（木）宿泊研修2日目〔5年〕 |
| 10日（水）ぐりぐらタイム
フッ化物洗口 クラブ活動開始 | 19日（金）スクールカウンセラー来校日 |
| | 22日（月）芝の補植作業〔5年〕 |
| | 23日（火）芝の補植作業予備日〔5年〕 |
| | 24日（水）社会科見学〔4年〕
お話出前〔2年〕
フッ化物洗口 委員会活動 |

裏面もあります。

令和8年度 川津小学校 学校経営構想

1 教育の指標

しまね教育振興ビジョン（令和7年度～令和11年度）

松江市教育大綱 基本理念 DREAMS from MATSUE～ふるさと松江から、夢を実現し未来を切り拓く～

基本方針Ⅰ生きる力をもった子どもたちの育成

Ⅱ一人一人の育ちと学びを支える体制づくり

Ⅲ子どもたちの教育環境の充実

Ⅳ生涯における心豊かに学び合う環境づくり

2 川津小学校教育の目標

ふるさとや仲間とのあたたかいつながりの中で、自ら考え、最後までやりぬく川津っ子の育成

<めざす学校像>

- 子どもにとって、学ぶ楽しさが味わえ、夢がもてる場に（子ども一人一人を大切にする学校）
- 保護者にとって、子どもの成長が見える場に（保護者を大切にする学校）
- 地域にとって、世代をこえたふれあいの場に（地域を大切にする学校）
- 職員にとって、やりがいのある自己成長の場に（職員を大切にする学校）

<めざす児童像>

◇か 考え表現できる子

- ・自ら学ぼうとする姿
- ・友達の思いを受けとめたり、自分の思いを伝えたりしようとする姿

◇わ 輪になって助け合う子

- ・自他の立場や思いを大切にする姿
- ・互いが支え合うことを大切にする姿

◇つ 続けてあきらめずに取り組む子

- ・自分のめあてに向かって粘り強く取り組む姿

<めざす教職員像>

- 愛情あふれる温かさと厳しさをもつ、信頼される職員
- 子どもの目線で物事を考え、子どもの成長に喜びを感じる、心豊かな職員
- 専門職としての使命感をもち、常に資質の向上をめざす、学び続ける職員
- 互いを尊重し、共に声をかけ合って高め合う、協働する職員

◎人権教育目標

◇人間の尊厳を自覚し、いじめや差別をなくす強い意志と連帯して問題を解決していこうとする実践力のある子どもを育てる。

※令和7年度学校評価より

○保護者の願い～川津小児童に特に身に付けてほしい態度や力

- ・授業で友達と話し合うことを通して、考えを深めたり広げたりする力
- ・自分と異なる考えを持つ友達のことも大切にしよう心がけること
- ・ルールやマナーを意識した行動をとる力

今年度の重点目標

- 学びづくり : 自分（自分たち）の目標を設定しそれをやり遂げる力を高めたり、多様な見方や考え、豊かな感性を培ったりすることにつながる学習活動をつくる。
- なかまづくり : 子どもと教職員とのあたたかなつながりを強め、安心して学んだり生活したりすることができる集団をつくる。
- くらしづくり : 「学びづくり」と「なかまづくり」の支えとなる、心身の活力をつくる。

【子どもと教職員の合言葉】

やる気・勇気をもって 粘り強く チャレンジ

【大切にしたいこと】

- *やる気・勇気の原動力となる「夢」「目標」を一人一人が持つことができるようになるための支援
- *一人一人の「ひたむきさ（粘り強さ）」を支える周囲の「あたたかさ」の意識

3 学校経営の具体的方策

(1) 川津っ子の育成

①自ら考える子

○学ぶ楽しさ、「わかる・できる」が実感できる授業づくり

- ・「松江の授業づくり（川津小バージョン）」を活用し、ねらい、活動の流れ、具体的支援を明確にした学習を展開する。

○伝え合う力を高める取組

- ・言葉を吟味しながら自分の思いや考えを伝えたり、他者の思いを受けとめながら自分の考えを深め、広げたりする活動を、各教科等の中に計画的に取り入れる。

○基礎学力の定着に向けた取組

- ・朝の活動と家庭学習の継続により基礎学力を高める。

○ICT 機器の活用

- ・個に合わせた学び、協働的な学びの充実に向け ICT 機器を計画的に活用する。

○学校図書館活用と読書活動の推進

- ・「学習センター」「情報センター」機能を活用し、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行う。
- ・朝読書、読み聞かせ等による読書活動の充実を図る。

②仲間とつながる子

○人権教育の推進

- ・道徳の時間、同和問題学習、紫雲丸学習の実践と充実を図ることにより、自他を大切にすることを耕し、実生活での行動につなげる。
- ・子どもたちの活動の中に、自他の認め合いの場と時間の設定をし、一人一人の思いが大切にされ、お互いの支え合いにより生活していることが実感できるようにする。

○生徒指導の充実

- ・子どもの自己決定や自主性と主体性を高めることをねらいとして持ち、学級活動、児童会活動、学校行事を計画的に実施する。
- ・あいさつ、ルールやマナーを大切にすることの意識化を図り、安心して学校生活を送ることができる風土づくりに取り組む。

○特別支援教育の充実

- ・特別支援教育コーディネーター、学級担任、通級指導教室（母衣小学校）指導教員及び他の教職員との連携を図り、コミュニケーションスキル等について、個に応じた指導と支援を組織的に行う。
- ・特別支援学級を核とした理解教育の計画的に実施する。

③最後までやり抜く子

○体づくりの推進

- ・「体づくりタイム」を中心に、日々の生活の中で体幹を鍛える取組を継続する。
- ・体育科の授業での運動量の確保、児童会活動と連携した休憩時間の外や体育館での遊びの励行等により、体力向上につなげる。

○健康・安全教育の推進

- ・栄養教諭を中心とし、食育の充実を図る。
- ・学年に応じた電子メディアとの適切な関わり方の指導を通し、メディア接触による健康への影響等の理解を促す。
- ・生活リズムチャレンジウィークの取組により、基本的な生活習慣の自己点検及び見直しと改善について意識できるようにする。
- ・自分の身は自分で守るための基礎的理解・スキルの習得を図るために学習活動を計画的に実施する。

○教育相談の充実

- ・子どもと教職員、保護者と教職員とが、日常的に教育相談を進められる環境をつくる。
- ・スクールカウンセラーの活用を計画的に行う。

(2) 信頼される学校づくり

①学校・家庭・地域の連携

○保幼小中一貫教育の推進

- ・他校・園所と交流し、児童・生徒理解を図る。
- ・9年間を見通した学習規律・学習方法の習得を図る。

○情報発信と誠意ある対応

- ・学校・学級だより、ホームページ、懇談会などで積極的な情報発信を行う。
- ・学校と保護者の関係づくりを心がける。

○学校評価を生かした教育実践

- ・PDCAサイクルを活性化する。
- ・学校評価を改善し工夫する。

②教職員の資質・指導力向上

○授業力・指導力の向上

- ・全員が年間1回以上の研究授業を行うことで、授業力向上をめざす。
- ・校内外での研修を充実させる。
(報告による情報の共有化)

○働きがいのある職場づくり

- ・互いにつながり合い、学び合うことができる職員集団をつくる。
- ・心身の健康を維持するため、働き方の改善を図る。
◇校務DX化による業務効率化の推進
◇各学期1回の業務改善に関する協議による具体的取組の検討と速やかな実施

③安心・安全な環境作り

○教育環境の整備

- ・整理整頓を心がけ、校内の教育環境を整える。
- ・備品等の管理を徹底し、教材の有効な蓄積と活用を進める。
- ・学校事務職員を核として、文書の処理と管理の適正化を図る。

○安全管理の徹底

- ・早めの「ホウ（報告）」「レン（連絡）」「ソウ（相談）」と「記録」を心がけ連携して危機管理を行う。
- ・安全点検を隔月実施し、事故の未然防止に努める。
- ・個人情報の管理を徹底する。